

## 書く活動における Padlet の活用

仙北市立角館中学校 佐藤 栞夏

### 1. はじめに

教員となり2年目となる今年度は、「授業において、1年目よりも見通しと余裕を持ち、生徒の反応に臨機応変に対応できる教師でありたい」という目標を立て、英語科の授業に取り組んできた。やる気に満ちたスタートだったが、校務分掌や部活動の量が大きく変わり、あれだけ楽しみにしていた授業の準備も、満足いくまでできないこともあった。悔しいことも多い1年だったが、生徒の反応から手応えを感じることもあり、諦めずに理想の英語授業に近付こうと試行錯誤している。

### 2. 実践の背景

私が勤務する角館中学校では、目指す生徒像を、「認め合う、つながり合う、高め合う」生徒としている。これを受けて、英語科では具体的施策として、「お互いに学び合いながら高め合い、課題解決できる生徒を育むために、生徒のつまずきや疑問を学習課題に取り入れるとともに、ペアやグループで考えたり、意見を伝え合ったりする活動を効果的に設定する」ことを掲げている。今回は、この目標に基づいた、「書くこと」における取り組みと今後の課題について述べる。

#### 2.1 クラスと授業について

今年度は2年生の3クラスを担当している。毎時間ではないが、JTE と TT の授業と週2回 ALT と TT の授業がある。ALT を含め、英語科の教師が複数で授業を進めると、生徒たちはより一層やる気を出し、積極的に話したり、質問したりする。

英語科の授業に肯定的な印象をもっている生徒が多く、授業での様々な活動に積極的に取り組んでいる。特に英語で書く場面では、ALT や JTE に単語や文章構成について意欲的に質問する生徒が多く見られる。また、友達同士で確認し合いながら、書き進める姿もある。

その中で、「他の人がどのような文章を書いているか知りたいが、すぐには理解できないため、プリントやノートを借りづらい」「スラスラ書いている人はどうやっているのか知りたい」「書きたいことは思いついているが、どう英語にすればよいか分からない」という相談をした生徒がいた。実際に、授業者としても、生徒が書いた文章を生徒同士で共有する時間をじっくり取りたいが、限られた時間でしかできないという悩みを抱えていた。一度に、より多くの生徒が書いた文章を共有したいと考えていたため、他

の生徒が書いた文章を好きなときに好きなだけ見られるように、Padlet というアプリを使用した授業を行った。

## 2.2 Padlet とは

Padlet とは、オンラインの掲示板のようなものである。文章だけでなく、画像、音声、動画などを投稿し、閲覧したりコメントしたりすることが可能である。掲示の仕方も教師が決めることができ、タイムライン型で表示したり、ランダムに並べたりすることもできる。

## 3. 授業実践

### 3.1 教材

NEW HORIZON English Course 2 Unit 2 Food Travels around the World

### 3.2 単元について

この単元では、登場人物のプレゼンテーションや対話を通して、食文化の歴史や変化について理解を深める内容となっている。扱う文法は、接続詞であり、そのうち、重文を作るもの (and, but, or) は既習事項である。今回は、複文を作るものとして when, if, that, because を含む文構造について学習する。

### 3.3 授業の概要

昨年度まで本校に勤め、今年度から京都府で働いている ALT から送られてきたビデオメッセージを見て、条件に合った秋田県や角館のおすすめ料理を選び、紹介文を書く活動を行った。生徒は班ごとに1つ料理を決めた後、グループ内で Ingredients, History, Taste, Cooking, Restaurant に分かれ、それぞれの紹介文を書き、Padlet に投稿した。今回の活動報告書では、「自分が書いた紹介文のレベルアップを目指し、アドバイスをし合う」というゴールに向けて、紹介文を共有する活動について紹介する。

### 3.4 授業の流れ

- ①ALT から送られてきたビデオを見て、求められている条件を確認する。
- ②紹介文をレベルアップさせるにはどうすればよいかという視点で事前にクラスで決めておいた、「レベルアップの技」について確認する。

※レベルアップの技

- ・ つなぐ (and, or)
- ・ 理由を足す (because)

- ・ 場面をしぼる (if, when)
- ・ 自分の意見 (I think that ~)

③それぞれの料理グループからカテゴリ (Ingredients, History, Taste, Cooking, Restaurant) に分かれて、Padlet に投稿された紹介文を読み合い、お互いにアドバイスをする。

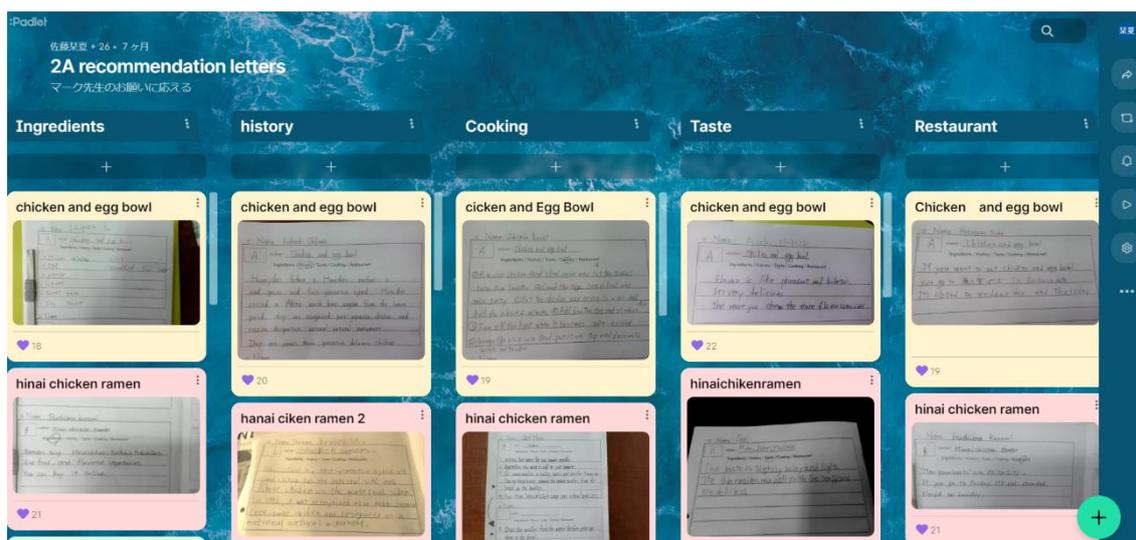


図 1 2年A組紹介文

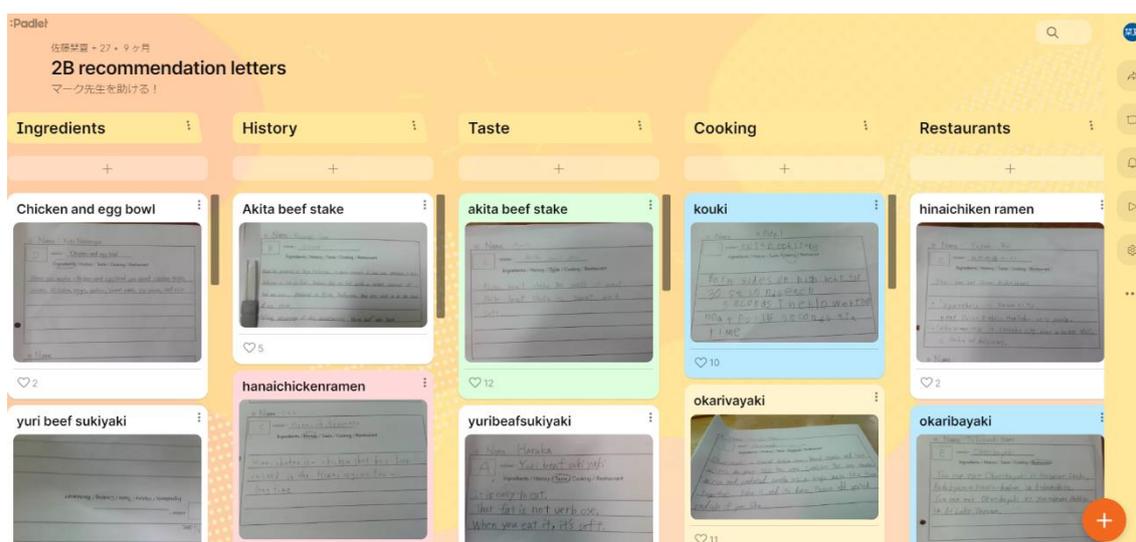


図 2 2年B組紹介文

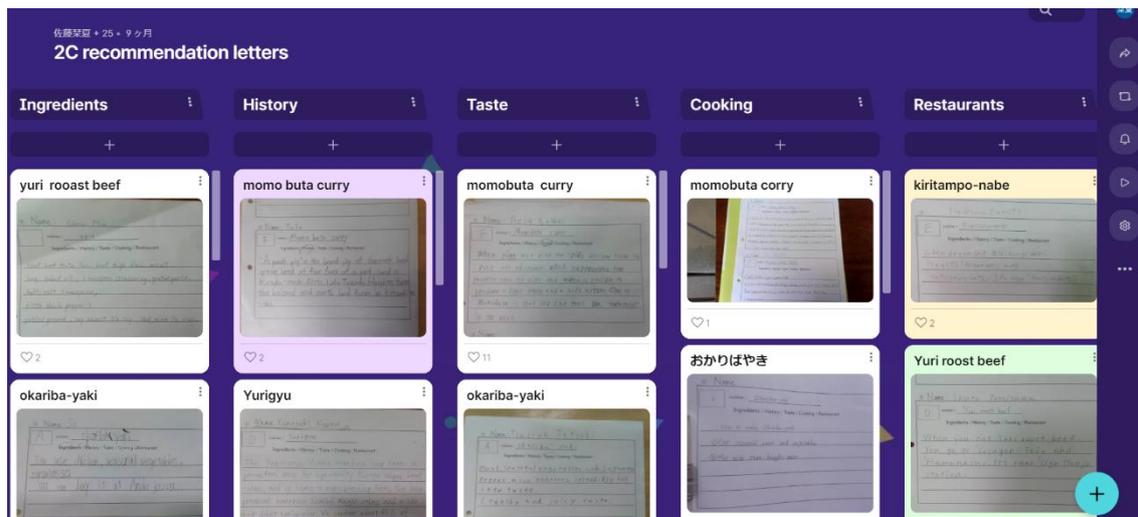


図3 2年C組紹介文

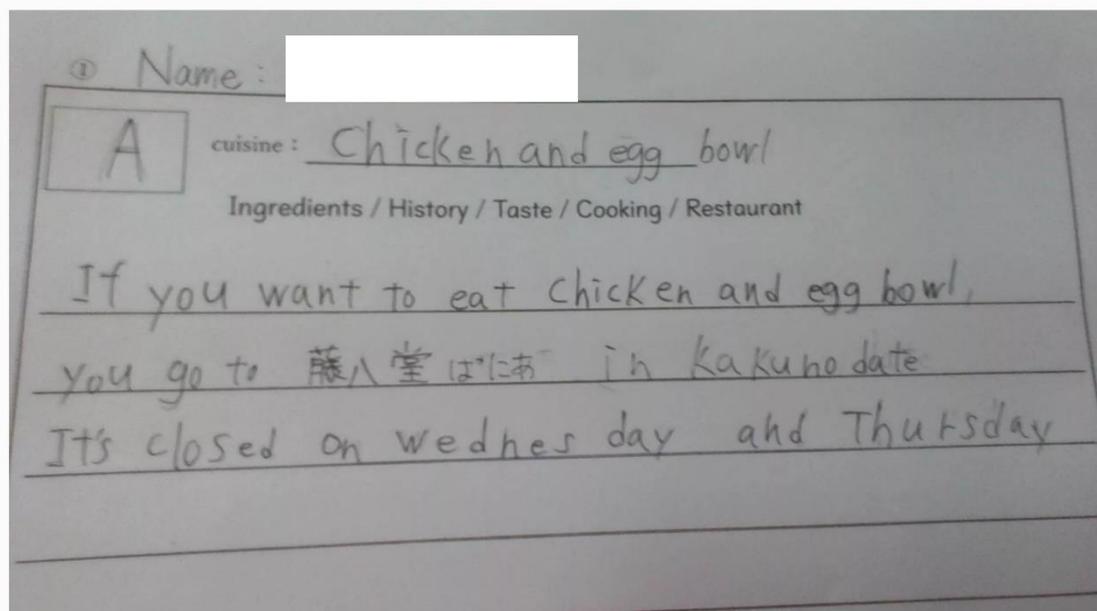


図4 投稿をクリックすると一人一人の紹介文を拡大して読むことができる

#### 4. Padlet 使用の観点から実際の授業における成果と課題

Padlet を活用した取り組みの成果は以下の通りである。

- ・ Padlet に共有し、一斉に見ることができるようにしたことで、同じカテゴリー(4, 5人)の文章を好きな順番で、自分のペースで読み合うことができていた。
- データとして残るため、保存の観点からも、紹介用紙を回収するよりも場所を取らないというメリットがある。
- ・ 同じ紹介文を同時に複数人で読むことができた。

→教師側の印刷等の準備を省くことができ、生徒も一人ずつ自分の手元で読むことが可能となった。

・一度に複数の投稿を見ることで、生徒が比較しながら読み合っていた。

→同じことを表現したい場合でも、異なる表現を使っているということに気付く生徒が見られた。

→どの表現が分かりやすいかという視点で読み比べ、自分の紹介文に取り入れたり、アドバイスをしたりしている生徒が見られた。

④いいねボタン等のリアクションをすぐに見ることができるため、得意不得意に関わらず、生徒が認め合い、達成感を味わうことができた。

一方で、次のような課題が残った。

・もらったアドバイスを下書きとして使用したプリントにメモできるようにしたが、タブレットに直接メモするように指示をしてもよかった。紹介用紙とタブレットを行き来することが大変そうだった。

## 5. 今後に向けて

Padlet を使用することで、一度に多くの生徒の紹介文を共有することができ、読む活動における個人差をカバーすることができたと考える。また、手元に複数の文章があるため、様々な表現に触れながら読む活動を進めていた。表現は1つではなく、よりよい表現は何かを考えたり、選んだりできるよい機会であったと考える。今回は、英語での実際のコミュニケーションも兼ねて口頭でアドバイスしたが、Padlet では、コメント機能を活用して、アドバイスや感想を伝え合うことも可能であるため、今後はこの機能を生かして、生徒の英語で考えて書く力を伸ばしていきたい。

2年間、学校現場で実際に働いてみて、「このような機能をもつアプリは知っているが、どの場面でどのように使えばよいのか分からない」ということが多かった。今回は実際に使ってみることで、メリットやデメリット、汎用性を見付けることができた。使用してみないと分からないことがたくさんあったため、これからも積極的に挑戦していきたい。また、先輩教員の指導や他教科の授業例などを参考にしながら、アナログとデジタルのよさを考慮して、生徒の理解や活動を支えるとともに、生徒にとって効果的で、教員にとって効率的な ICT の活用方法について模索していきたい。